

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年10月調査結果-

2010年11月10日

調査要領

- 調査期間 2010年10月18日～22日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）
業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の10月の状況を見ると業況DIは、前月より0.6ポイント回復の▲42.7。

平成7年4月調査開始以来187ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、建設業・卸売業・サービス業の3業種で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲50.0と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、製造業・卸売業の2業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
業況	▲34.1	▲40.5	▲32.3	▲39.8	▲43.3	▲42.7	▲50.0
売上	▲22.5	▲23.7	▲21.0	▲28.9	▲34.6	▲40.3	▲49.2
採算	▲21.7	▲29.0	▲26.6	▲34.4	▲40.9	▲41.1	▲49.2
仕入単価	▲27.9	▲26.0	▲31.5	▲21.1	▲30.7	▲23.4	▲22.6
従業員	▲9.3	▲8.4	▲12.9	▲9.4	▲11.8	▲12.9	▲18.5
資金繰り	▲12.4	▲13.0	▲14.5	▲20.3	▲16.5	▲21.0	▲29.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
建設	▲42.9	▲51.7	▲50.0	▲60.7	▲58.6	▲51.8	▲51.7
製造	▲19.2	▲26.9	▲4.1	▲25.9	▲25.9	▲33.3	▲41.6
卸売	▲17.3	▲39.3	▲19.2	▲14.8	▲22.2	▲19.2	▲50.0
小売	▲33.4	▲37.5	▲29.2	▲29.2	▲45.4	▲57.1	▲52.4
サービス	▲63.6	▲45.9	▲59.1	▲72.8	▲68.2	▲54.1	▲54.1

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事現場も多数見られ、住宅新築・改築は良好となってきているが、年度初めの工事の薄さと冬季工事により収益的には今期も厳しい結果が予想される。 ・ 一過性の好転であって、まだ先が安心できない状況となっている。 ・ 春から着工していた工事が完成し現場員が余剰気味だが、11月以降の受注が思うように確保できない。 ・ 民主党政権下にて公共工事が大幅に削減されて、受注は大幅に減少。売上利益共に悪化し、改善の目処は全くない状況である。過当競争が厳しく低入札も増加し、受注できたとしても採算はとれない。 ・ 前年度と比べ受注額が半分に落ちている。今後の見通しも不透明な状況が続くと思われる。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円高による景気の先行に対する不安からか、国内消費の低迷が続いている。特に法人需要が悪い。円高により輸出の促進にもブレーキがかかっている。 ・ 家具業界については相変わらず不況産業に変わりない。住宅が少し伸びをみせているので期待したい。 ・ 売上が前年比 107%と好調。それに伴い利益も前年比 105%と伸びた。年内はこのまま推移すると思われるが、年明けからの見通しは立たず不安である。天候不順による農産物の品不足及び価格の高騰が懸念される。 ・ 今後の補正予算に期待したいと考えている。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猛暑の影響もあり売上は前年を下回っているが、金利安などもあり収益面ではやや改善傾向にある。 ・ 業況は去年とあまり変わっていないが、悪化はしていない。 ・ サンマや鮭の不漁もあり、業況は一段と厳しい。 ・ 今月は文化の日の表彰関係の注文があり多少忙しい状況。景気の影響が少ない業界であったが、ここにきて低成長不景気の影響が大きい。今後厳しい状況が続いていくと思われる。 ・ 原材料である綿花の単価が、従来に比べ6割以上も高騰している。商品供給が困難であり、中国からの納期も不安定。製品の値上がりは必至だが小売への価格の転嫁も難しく、先行きが厳しい状況である。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中旬にあった3連休のイベント時期以外は全体的に集客が少なく厳しい状況。コートやブルゾンなどの単価の大きい重衣料の動きが例年よりも遅く、季節の変わり目のトータルで求めるお客様が少なくなってきたのも厳しい要因の一つ。 ・ 車両燃料は高速道の無料化と、新車購入の補助金制度が終了し消費量も減少しており、10月初旬よりの円高傾向が在庫の圧縮を招いている。併せて製油所の定期点検修理期となり今冬の灯油燃料の消費量と価格に注目されており、前年並みの在庫確保と価格を維持すべく準備している。 ・ 新車の受注はエコ車購入補助金終了以後20~30%ダウン、その分U-CarへシフトしたのかU-carは前年越えて推移。今後もこの傾向は続くと思われる。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べマルシェの予想以上の効果・恩恵を受けた。ADRも若干の落として終えることができそう。しかし後半は旭山動物園休園のため観光が落ちている。 ・ 客数が減少気味であったが、北の恵み食べマルシェ開催中は好調な売上げで恩恵を受けた。後半の売上増は望めないが対策を打っていく。 ・ 120周年イベントがあったが、製作が札幌の業者となっており、地元業者にはあまりよい状況ではなかった。 ・ 市のイベント企画があったが、業界としてはあまり効果がなかったような気がする。原因として宣伝方法や業界に通達するのが遅れたためではないかと思う。また早い時間に終了したため、夜はほとんど飲食していなかったのではないかと思う。 ・ 政府の経済方向性が乏しく、2番底で彷徨っている感があり、道外の観光客が減少している。インバウンド客数の増加で凌いでいる状況だが、低宿泊単価もあり減収減益。 ・ 今年度も上半期が経過し、公共事業の大幅な削減と民需の低迷により業界全体が疲弊している。平成22年度補正予算が閣議決定されたが、これから降雪期を迎えるため、予算のいちはやい執行を望む。 ・ 利用者数は横ばいだったが、昨年10月は9月のシルバーウィークの反動で大きく落ち込んでいたため、実質大幅な減少傾向は続いている。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI24.1 ポイント悪化。採算 DI6.9 ポイント、仕入単価 DI6.9 ポイント、従業員 DI6.9 ポイント、資金 DI3.5 ポイント回復、総じて業況 DI も 6.8 ポイント回復となった。業種別では総合工事 2 ポイント悪化。設備その他 16 ポイント、建築業 13 ポイント回復となった。工事現場も多数見られ、住宅新築・改築は良好となってきているが、年度初めの工事の薄さと冬季工事により収益的には厳しい結果が予想されるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>仕入単価 DI3.7 ポイント回復。売上 DI15.7 ポイント、採算 DI3.7 ポイント、従業員 DI1.9 ポイント、資金 DI16.7 ポイント悪化、総じて業況 DI も 7.4 ポイント悪化となった。業種別では食料品 50 ポイント、家具木材 13 ポイント回復。印刷出版 20 ポイント、金属窯業他 47 ポイント悪化となった。円高による景気の先行に対する不安からか、国内消費の低迷が続いており、特に法人需要が悪いとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>仕入単価 DI0.9 ポイント、従業員 DI12.2 ポイント、資金 DI4.0 ポイント悪化。売上 DI3.7 ポイント、採算 DI10.8 ポイント回復、総じて業況 DI も 3.0 ポイント回復となった。業種別では、機械鋼材 5 ポイント悪化。食料品、その他横ばい。繊維 33 ポイント回復となった。猛暑の影響もあり売上は前年を下回っているが、金利安などもあり収益面ではやや改善傾向にあるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>仕入単価 DI17.8 ポイント回復。従業員 DI横ばい。売上 DI25.3 ポイント、採算 DI30.3 ポイント、資金 DI5.6 ポイント悪化、総じて業況 DI も 11.7 ポイント悪化となった。業種別では、家電時計他 40 ポイント回復。食料品横ばい。衣料品 50 ポイント、自動車 50 ポイント悪化となった。新車受注は購入補助金終了以後 20～30%ダウンしたが、U-car は前年越えで推移、今後もこの傾向は続くと思われるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI40.6 ポイント、採算 DI13.6 ポイント、仕入単価 DI10.9 ポイント、従業員 DI0.3 ポイント、資金 DI2.7 ポイント回復、総じて業況 DI も 14.1 ポイント回復となった。業種別では、その他 50 ポイント悪化。ホテル横ばい。クリーニング 100 ポイント、飲食 17 ポイント、整備業 50 ポイント、運送 5 ポイント回復となった。客数が減少気味であったが、北の恵み食ベマルシェ開催中は好調な売上で恩恵を受けたとの声も寄せられている。</p>